

議 事 録

会議名	川西市総合教育会議(第2回)		
事務局(担当課)	行政経営室		
開催日時	平成27年10月9日(金) 15時00分から16時10分		
開催場所	川西市役所 4階 庁議室		
出席者	委員	川西市 大塩市長 川西市教育委員会 牛尾教育長、加藤委員、磯部委員、服部委員、鈴木委員	
	関係職員	松木総合政策部長、中塚こども未来部長、石田教育推進部長	
	事務局	総合政策部行政経営室 船曳室長、志波主幹、小野副主幹	
傍聴の可否	可	傍聴者数	2人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1 開会 2 議事 平成28年度教育施策と予算について 3 その他 市長及び教育委員会との意見交換		
会議結果	平成28年度教育施策と予算について意見交換		

発言者	発言内容等
事務局	<p>それではただ今より、第2回川西市総合教育会議を開催させていただきます。会議開催に当たりまして、総合教育会議の主宰者であります大塩市長からごあいさつをさせていただきます。</p>
大塩市長	<p>本日は、第2回目の川西市総合教育会議を招集しましたところ、ご出席をいただきありがとうございます。</p> <p>加藤委員さんにおかれましては、10月1日から3期目ということでございますけれども、よろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>この会議につきましては第1回会議を5月に開始し、早いもので半年弱が過ぎようとしています。前回の会議は、教育の大綱を総合計画として位置付けることや委員の皆様「川西の教育」に対する思いについて、意見を交換する機会とさせていただきます、大変有意義な議論ができたと感じております。</p> <p>さて、今回は、議題にもございますように、平成28年度教育施策と予算について、委員の皆様と意見交換をさせていただければと存じます。</p> <p>教育政策について、この短い時間で全ての思いについて、議論を尽くすことは難しいとは思いますが、教育長をはじめ、教育委員のみならずと意見を重ねることは、教育の新しい制度の特徴ではないかと思っておりますので、皆様のご意見に全てお答えすることは、厳しい予算状況の中、難しい面もあるとは思いますが、ご提案をいただければうれしく思っております。</p> <p>本日は、積極的な意見交換をしてみたいと考えておりますので、よろしくお願ひを申し上げます。</p> <p>以上簡単ではありますが、開会にあたってのご挨拶とさせていただきます。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>これよりの会議の進行につきましては、大塩市長にお願いしたいと思います。市長、よろしくお願ひいたします。</p>
大塩市長	<p>それでは、この後は、私の方で議事進行をさせていただきます。</p> <p>議事でございますが、まず、「平成28年度教育施策と予算について」を議題といたします。</p> <p>折角の機会ですので、委員の皆様から、平成28年度の教育施策と予算について、ご意見等をいただければと存じますが、いかがでしょうか。</p>
牛尾教育長	<p>それでは私の方から全体的なお話しと、概要も含めて今回お願ひをしております大きな柱が2つ。その大きな柱の1つに4つほど事業にすることがございます。まずは、私の方で説明させていただいて、1つ1つについては各委員からお話をさせていただいた後に、大塩市長とご議論いただけたらと思っております。</p> <p>それではよろしくお願ひします。</p> <p>改めまして、本日第2回目の総合教育会議を開いていただき、平成28年度に向けての川西市の教育についてご協議をいただくことに感謝申し上げます。</p> <p>現在、川西市の教育にかかる約1500人の教職員、就学前教育、保育そして学校教育にかかる約15000人の子どもたち、約10000世帯の保護者の方々、そして市民の方々の為に就学前教育、保育、子育てや家庭の支援、学校教育、社会教</p>

発言者	発言内容等
	<p>育等に取り組んでいるところでございます。</p> <p>学校教育では子どもたちが確かな学力を身に付け、豊かな心と健やかな身体を育み、社会性を磨く中で、自立した社会人として夢に向かって強く生き抜く力を育てる事が重要と捉えています。</p> <p>また社会教育につきましては、市民一人ひとりが生涯を通じて、主体的に学び、その成果を地域づくりや子どもを育む活動に活かすことができる、そうした環境づくりが求められています。</p> <p>本市教育委員会では教育に託された役割を果たすために、「地域と人の輪でつくる学び育ち合う教育の推進」を基本理念に教育施策を推進しているところでございます。</p> <p>平成 28 年度の予算編成にあたり、教育行政の更なる振興に向けて、次の事項について重点的に取り組みを進めていきたいと考えております。</p> <p>1 つ目は、確かな学力を育む教育の充実です。その一つに外国語活動の推進について、母国語、国語教育の充実は第1義であります。現在、小学校は毎日 1 時間以上国語の授業を受けています。低学年は1.5時間くらいの授業を1日に受けています。そうしたことを前提に次年度から外国語教育の一層の充実を図るため、小学校 5 年 6 年生において、現行の外国人指導助手の配置に加え、外国語指導力を有する、地域の人材をコーディネーターとして配置することを検討しております。</p> <p>学力向上の 2 つ目の側面的な支援として、読書活動の推進です。読書活動の拠点として、学習支援や情報活用能力の育成をはじめ、確かな学力や豊かな人間性を育むことに繋げるために、文部科学省が定めている図書標準100%の達成、書架等の整備、学校司書の拡充による学校図書館の環境整備に取り組むを進めていきたいと思っております。</p> <p>3 つ目に、子どもたちの学力向上に向けて、ICT 機器の活用であります。校務の効率化を図り、教職員が子どもたちと向き合う時間の確保や、教育の質の向上につなげるために、学校や児童、生徒にかかる様々な情報をデジタル化し、教職員間で共有する、校務支援システムの導入を検討しています。</p> <p>またデジタル教科書の活用による、より効果的な授業の実施に向けて研究を進めていきたいと考えております。</p> <p>4 つ目に、生徒指導体制。これも学力向上の側面的な支援になりますが、スクールソーシャルワーカーの設置であります。いじめや不登校などの課題に対応するため、現行の学校コンサルテーションの活用や専門的知識や経験を有した人材の活用を図ることで、家庭や学校、友人関係、地域社会等の児童・生徒がおかれている環境改善の支援に取り組むたいと思っております。</p> <p>大きな 2 つ目です。</p> <p>川西ふるさと教育の推進であります。その中軸として、副読本の改訂を考えております。ふるさと川西に誇りを持ち、地域と共に生きる人材を育てるために、小中学校で使用している社会科副読本の改訂を考えています。</p> <p>川西の暮らし・自然・歴史・文化などをより効果的に学習できる内容にするとともに、防災教育や地域での調査、体験活動の視点を充実させてまいりたいと思っております。</p> <p>具体的な内容につきまして、各教育委員より説明させていただきたいと思っております。</p>

発言者	発言内容等
磯部委員	<p>始めに磯部委員からお願いします。</p> <p>それでは、私からは小学校における「外国語活動のさらなる推進」について話をさせていただきます。</p> <p>小学校においては、平成23年度から新学習指導要領の全面実施に伴い、5年生・6年生において、授業時数、年間35時間の「外国語活動」を実施しております。</p> <p>外国語活動では、音声を中心に外国語に慣れ親しませる活動を通じて、言語や文化について体験的に理解を深めるとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、コミュニケーション能力の素地を養うことを目的としております。</p> <p>そこで川西市では、年間35時間の授業時数の内、8時間を学級担任に加え、外国人指導助手である通称ALTと共に、チームティーチングを実施しております。</p> <p>ALTを派遣することで、子どもたちは生の英語を耳にし、また、異文化を持つ人に身近に接することで、新たな世界を体感しております。</p> <p>私もALTが派遣されている授業を何度か見学に参りました。</p> <p>外国人の先生を目の前にするだけで戸惑っていた子どもたちも、先生の発音を真似して英語を口にする。耳で聞いたことを、真似をして話をしているうちに、外国人の先生とコミュニケーションがとれるようになる。</p> <p>戸惑っていた表情がパッと晴れて、ワクワクした表情にかわる。まさに、ALTを派遣する効果と、外国語活動の成果を目の当たりにいたしました。</p> <p>そこで、今後の話になりますが、国際社会での共通言語であり、コミュニケーションツールとしての生きた英語の習得に向けて、平成28年度には学習指導要領が改訂されます。</p> <p>そして、平成32年度には、5年生・6年生の授業時数が35時間から70時間になり、さらには、外国語活動が英語としての教科になります。</p> <p>また、新たに3年生・4年生においては、授業時数、年間35時間の外国語活動が必修化される見通しでございます。</p> <p>国の動きとして、小学校の英語教育が大きな一歩を踏み出している中、川西市としてもさらなる教育環境の充実を図るべく、ALTの継続的な派遣は勿論のこと、英語に長けた地域の人材を活用することを考えております。</p> <p>ちなみに、小学校の外国語活動の総授業時数に占めるALTの割合は、全国平均で60%であり、また、阪神間においては、ALTおよび地域の人材によるチームティーチングが、外国語活動の総授業時数の59%に達しております。それに対し、川西市の場合は、ALTの派遣のみ実施しており、その割合は23%であります。</p> <p>従いまして、来年度は、全国や阪神間の取組みにならい、ALTの継続的な派遣と、地域の人材の活用に、是非とも取り組みたいと考えております。</p> <p>川西の教育に掲げております「めざす人間像」には、「夢に向かい志をもって未来を切り拓く人」とあり、また、5つの基本方針には、「未来を切り拓き、たくましく生き抜く力を育みます」と、コミットメントしております。</p> <p>子どもたちの未来や夢の舞台は、日本にとどまらず世界へと広がっております。子どもたちが、夢に向かい志をもってたくましく、未来を切り拓く力の一つとして、</p>

発言者	発言内容等
	<p>川西市においても、外国語活動のさらなる推進を図り、生きた英語教育の充実を図る所存でございますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
牛尾教育長	<p>それでは鈴木委員、「読書活動の推進」についてお願いします。</p>
鈴木委員	<p>続きまして、「確かな学力を育む教育の充実」のうち、「読書活動の推進」について述べさせていただきます。</p> <p>言うまでもなく読書は、人生をよりいきいきと生きるための心の糧であり、人間性を豊かにするものです。また読書を通して、読解力・思考力・語彙力や想像力・表現力・感受性など、確かな学力を支える基礎的な能力の発達が促されることはよく知られているところです。</p> <p>川西市では、専任の担当者がいないため、学校図書館が閉じられている状況の中、10数年前より保護者や地域住民が、学校図書館の運営を模索しはじめました。現在では16小学校すべてと4つの中学校で、600名を超える人々が、図書の整理や補修・貸出業務・壁面装飾・読み語りなどの活動を行っております。</p> <p>そしてようやく平成25年度から、学校司書が各校1名配置されるようになりました。多くは図書ボランティア出身の方です。</p> <p>従来のボランティアのみなさんと連携して、学校図書環境が更に活性化してきたところではあります。</p> <p>しかしながら、学校図書館の大切な役割のひとつである、教科教材と結びつけて学習の資料を児童生徒に提供することを実現するには、学校司書の現行の勤務条件であります、1日6時間、1週当たり1日、年間35回以内では時間が足りません。子どもたちに適切な読書の援助を行えるようもっと研修を受けたいとの要望も学校司書自身から多く寄せられています。学校司書の勤務時間の拡大が望まれます。</p> <p>もう1点、文部科学省は「学校図書館図書標準」を設定し、これに基づき学校図書館の図書を整備するよう定めております。</p> <p>「学校図書館図書標準」とは、学校ごとに学級数により蔵書の冊数を策定したものです。川西市はこれを100%達成している学校の割合が小・中学校共に近隣の市のなかで極めて低い結果となっております。</p> <p>文部科学省の掲げる目標より1年遅れとはなりますが、平成29年度末全校100%達成をめざして、図書の整備、及びこれを納める書架の整備を進めていきたいと考えております。</p> <p>以上、人と物の両面から学校図書館を充実させることができますよう、ご配慮をお願いいたします。</p>
牛尾教育長	<p>それでは「ICT 機器」について加藤委員からお願いします。</p>
加藤委員	<p>それでは、ICT 機器の拡張についてお話しさせていただきます。</p> <p>まずは校務支援システムというソフトを導入することと、それに関わるハード面でパソコン、この2つの導入を考えて、推進していきたいと考えております。</p> <p>ただそうやってしまえば校務情報化、校務支援システムというと一元的に現場の先生方の仕事を楽にすると聞こえてしまいそうです。もちろんその目標もありま</p>

発言者	発言内容等
牛尾教育長	<p>すが、このシステムがもたらす成果は、同じソフトを使ってネットワーキングするというのが一番の目的です。ネットワーキングの先に何があるかという、子どもたちの情報を例えば一年生からどうだったかをデジタル化することで繋いでいけます。いわば学習カルテのような情報の共有がずっとできるようになります。担任が変わろうとどのような環境が変わろうと中学校でも小学校の時にこうだった、という状況が全部掴める。今までも算数カルテや国語カルテという考え方というのはアナログの時代からありまして、小学校の時に個人の算数カルテを作っておいて、中学校に持っていくことによって、子どもの個別の能力を伸ばそうという考えはありました。</p> <p>それを今度はデジタルにして、入口のところで校務支援ソフトを導入することによって、そこから先は皆で共有できる、もっと言えばそのシステムのネットワーキングのなかに教育相談センターも当然アクセスできるようにしておけば、そこを見た時に、何かで先生が1人で悩む事なく、その子どもたちにベストな手法をとれると判断しております。当然名簿の管理、出席管理、成績処理、評価なんかについても利用できるようになりますので、色んな面において時間短縮ができると同時にその他のことに先生達も目が行くことになると考えております。</p> <p>近隣におきまして、この7市1町のうち、あとの6市においては既に実行されているような校務支援システムですので、有効性は十分に証明されておりますし、今から参入するにあたって、非常に費用対効果の高いものだと思っております。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、私の方からは「スクールソーシャルワーカーの設置」についてお話をします。</p> <p>学校にしても幼稚園にしてもやはり、子どもたちの生活と学習というのは両輪であります。そういう面で子どもたちの生活が安定すれば、学業面も向上するということがございます。</p> <p>川西市の子どもたちの状況をみますと、全てそういう状況で進めているわけではなくて、家庭環境を背負って難しい状況の中で登校し、不登校の子どもたちもおります。</p> <p>そうした中で生徒指導の中心は、担任と学年の先生方、そして管理職の先生方が中心に取り組みられています。</p> <p>非常に厳しい状況の中で先生方は普段は授業をなさっているので、子どもたちに関わるのに、緊急のときには本市が持っている学校コンサルテーションで対応していただき、先生方に助言・援助をしています。現在、実際には、臨床心理士1人で対応していますが、現場の実験的な教職員の経験をお持ちの方が入ってスクールソーシャルワーカーとして、臨床心理士の方と経験を持っている教職員出身の立場の方、さらに、児童福祉の関係もあってそういう面から専門的にご指導・支援していただける、短い時間でも専門的な方も含めてチームとして対応できる体制がとれないかと考えております。</p> <p>今回、臨床心理士の立場でのスクールソーシャルワーカー、そして現場の先生方と子どもたちと精通している立場の先生出身のスクールソーシャルワーカー、児童・生徒の福祉に関して専門的に取り組める方の立場でのスクールソーシャルワーカーの方々がチームを組んで、学校との協力の中ですすめていくことができたなら、より子どもたちの虐待、家庭の親子関係の難しさなどからくる生徒指導上非常</p>

発言者	発言内容等
	<p>に厳しい状況に入っていった解決を図っていく1つの体制ができると思います。</p> <p>本来、学校と家庭だけで進めていくことが中心ではあるのですが、こういった形で支援がより一層出来ればということで、学校コンサルテーションの設置をシフトして川西市のスクールソーシャルワークとしてそれを3人態勢のチームで可能になれば、より川西市の生徒指導体制の充実、生活面の安定、ひいては学力向上につながると考えます。よろしく申し上げます。</p>
牛尾教育長	<p>最後になりますが、「ふるさと川西、郷土の学習」について服部委員からお話しいただきます。お願いします。</p>
服部委員	<p>「川西ふるさと教育の推進」ということでお話しさせていただきます。</p> <p>川西市は既にふるさと川西を大事にしようということで、非常に進んでいるところです。生物多様性の戦略においても「ふるさと川西戦略」というように普通の市でしたら地名だけしか入れないところを「ふるさと」を入れているところが、川西市の大きな特色だと思っております。</p> <p>その中でふるさと教育というのは学校教育だけではないですけど、実際に博物館におりまして、ふるさとの大事さを教えても一過性に過ぎません。</p> <p>やはり学校教育の中できちんと、ふるさと教育というのを位置づけないと、なかなか子どもたちには理解ができないということで、社会科の中で教えていきます。</p> <p>しかし副読本も非常に古いデータで作られています。改訂はしていますが根本的なところの流れは変わっていませんので古い状態で続いています。</p> <p>その古いものを今の状況にあわせた形できちんと体系づけてまとめていくというのが大事だと思います。</p> <p>例えばここに書かれていることで、木炭・桃・寒天、ため池、用水路、ニュータウンという問題が出ていますが、それは個別に出ているので、じゃあそれと一体どんな関係があるのかという関連性がはっきり見えません。</p> <p>例えば、桃は上加茂で作られています。上加茂というのは台地です。水の便が非常に悪いところなので水田には元々向いていないので桃を作ったという背景があります。そういう背景を含めてきちんと、子どもたちに伝えていく。</p> <p>木炭の場合は何故川西で発達したかというまさに鉱山との関係あるいは天領との関係があります。</p> <p>ニュータウンがたくさんできましたが、ニュータウンというのはどういう背景があるかというニュータウンのところは、ほとんどが大阪層群というゆるやかな地形から成り立っています。その大阪層群のところをつぶしてニュータウンにしたということがあります。だからニュータウンが存在することの背景、あるいは桃が生産されていることの背景ということをつづつ連携させていく。そして子どもたちに伝えて、川西のよさを伝えていくというのが重要だと思います。</p> <p>今までの副読本ではまだここまで行っていないので、少し予算をかけていただいて、立派なものを作って、それがただ単に学校教育だけで使うというのではなくて、生涯教育の中でも使えるような副読本を作りたいと思いますので、ぜひ予算をよろしく申し上げます。</p>
牛尾教育長	<p>ありがとうございました。委員からは以上です。</p>

発言者	発言内容等
大塩市長	<p>重点的に何個か絞られて各委員の皆さん方が申されたことは、もっともなことばかりだと思います。ただ、どういう風な形でどの程度の予算がいて、どのような形でしていけるかというのは、これから詰めていかなければ、ここで「はい、わかりました」というのは、なかなか難しい話だと思いますが、肉づけをどのようにしていくのかという風に思います。</p> <p>個別の意見ですが、外国語については、私どもは比較的国に先駆けてやったのですよね。平成 23 年に、私も確か明峰小学校だったと思うのですが、5 年生か、6 年生を見に行きました。それから 4 年経ちますね。成果としてはどうですか。それなりに今やっていた方法でそれなりの成果が出ているように思われますか。1 から 10 まで色々評価はあると思いますけれども、全然やっていないことに比べたら評価はあると思いますが、今はどんな形で ALT を置き、国の時間が 35 時間というような色々お話しがありましたが、どこまで取り組むことによって成果が出るのかなと。当初の予算のつけ方として、どういうふうな形で組んでいけば成果が出るのかな。現状は小学校で英語の試験はやるのですか。ないのなら評価はどのようにしているのですか。今で 35 時間やっていて、それについての評価はどこかでやっているのですか。次また増やしていくことは、私も良いと思いますが、実施した成果を示せるようにしていく方が、よりやりがい感があると思うので、その辺りをどう整理して、現状がどうで、こうやるとこうなる、というようなことが少しお話しとして必要なと思います。やはり英語ですか。</p>
牛尾教育長	<p>そうですね、英語です。</p>
大塩市長	<p>考え方として英語の時間 1 時間、ドイツ語 1 時間、フランス語 1 時間、中国語 1 時間とか色々考え方はあると思います。評価の話は英語だけを特化するのかオールマイティな教育として色々な外国語をするのか。</p> <p>世界的に使用されていない外国語までは必要ないかも知れませんが、外国語教育という中で国がどういうふう指針しているのか分かりませんが、私はその辺りも検討は行うべきかと、ただ単に一辺倒に英語でいいのかなと、こう思わなくもありません。</p> <p>今すぐでは、ございませんが、そんなことも考えながら実施していく必要があるのではないかと思います。大きな目標を立てていただいて、実施していく必要があると思います。</p>
磯部委員	<p>先程お尋ねの評価に関してなんですけれども、今、小学校の外国語活動は教科としては行っておりませんので、例えば「よくできる」「できる」など「あゆみ」のような評価はないのですが、「あゆみ」のところに外国語活動という項目がありまして、そこに先生方が、それぞれの主観を文章で表現するということにはなっています。それが 32 年度からは 5 年生 6 年生が教科として扱われます。</p>
大塩市長	<p>それは英語ですか。</p>
磯部委員	<p>英語です。</p>
大塩市長	<p>今の段階ではそういう形ではあるということですね。取り入れていく地域コーディ</p>

発言者	発言内容等
牛尾教育長	<p>ネーターなんかも配置していくことになる、その辺りもしっかり評価出せるような指針を表していくことも、入れていく根拠にはなっていないかなと思います。</p> <p>当初、文部科学省の指定を多田小で受けました。それが先行的に地域の ALT をチーム方式で 22 年度にスタートして 23, 24 と進めていきました。やはり基本的には 5・6 年生の担任でやっていこうかということがベースだということで、だんだん地域の方々の応援を縮小し、最終、昨年度以降からは、最低 1 クラスに 8 時間、1 クラスに年間 8 時間、実際に ALT の方に入ってもらって進めています。本市以外の阪神間でも、基本的には 5・6 年生の担任の方々ではやはり難しい面があります。必ず英語ができる方とは限らないので。もちろん努力はなさっていて、今行っていることもあるのですが、ALT の 8 時間となおかつ最低 12 時間くらいは地域の方々で英語に長けた方がおられますので、12 時間程度入っていただいたら 35 時間のうち、20 時間くらいになりますので、半分以上はそういう一種のチームティーチングで子どもたちにより分かりやすい、楽しい充実した外国語活動を進めていくことが出来ればと思っています。現在は 83% くらいが「楽しい」「おもしろい」「わかる」といっている児童がいます。</p> <p>5・6 年生の段階になると 1 割くらい「面白くない」と思っている子どもたちも現実にはいます。そういうことを含めると将来的に週 1 時間～2 時間になるわけですし、そうなったときには教科になるわけですからさらに充実させる準備も必要かと思えます。阪神間がどこも 100% でみんな地域方式で努力をなさっているのでも少なくとも本市も 6 割くらいですけれども、進めていきたいと思えます。よろしく願います。</p>
大塩市長	<p>しっかり検討しなければいけませんね。やはり特に外国語を、他の教科も同じですが関心のない子どもたちが楽しく興味をもてただける、遊びながら、とは言いませんが、そういうしっかり興味を示さないといけないでしょうね。</p> <p>英語に限らず、いろんなことに触れられるようにしていけばいいですね。</p> <p>どの程度のことでどの程度が充足になるのかはわかりませんが具体的な話しにしていきたいですね。</p> <p>次は鈴木さんの方から「読書について」ですね。</p> <p>読書というのは、よく言われており、随分必要なことかなと思います。司書の拡充ということですが、これは環境整備ということですが、今はこれ充足していないのですか。実際は、これも阪神間で低いという言葉をしていただいて、言葉返しにくいと思っていたのですが、実際はどのような状況ですか。</p>
牛尾教育長	<p>今は原則週 1 日です。あとは小中学校にだいたい 15～30 人位の図書ボランティアの方がおられますので、そういった方々と組んでいます。あと学校の司書教諭。中学校でしたら生徒会の図書委員会と連携して図書活動を進めています。現実、書架の整理をすとか、読み聞かせ用にレイアウトをきちっと変えとか、図書館の担当の方と一緒にお昼休みに集めて、読み聞かせの活動をしていただいています。管理面ではノウハウを持っておられますから非常にありがたいです。週に 1 日で時間が決まっていますので。</p>

発言者	発言内容等
大塩市長	そういう準備は当然いるのですが、子どもたちがいかにして本になじむか、そっちも大事ですよ。
牛尾教育長	図書室の整備なんかかなり変わってきましたので。
大塩市長	この前、学校ではないですが、岐阜市に行った時に立派な図書館がありました。この頃の図書館は形態が随分変わってきていますね。当然、学校の方も子どもたちが読みやすい環境づくりが必要です。
牛尾教育長	そういったことを生徒会の子どもたち、図書委員、児童会の図書活動の子どもたちが学ぶチャンスにもなりますので。
大塩市長	読書の時間と言うのはどれくらいありますか。
牛尾教育長	<p>小学校1年2年生がだいたい315時間ですから週に9時間ですね。</p> <p>3年4年生が週に7時間、5年6年生が週5時間ですから1日に1回は国語の時間に行なっているということです。かなり多いです。</p> <p>市長がおっしゃったように、1年2年生は週9時間ですから、必ずボランティアの方が入られて1時間は図書館教育をなさっています。4年生くらいまではどの小学校もされていると思います。読書中心に読み聞かせとか、読書の大切さとかいうものを中心に本に親しむとか読書の大切さというものを授業のチームティーチングで図書ボランティアや学校司書の方とか担任とでされています。そういう体制です。</p> <p>今のところは小学校が97%くらいで中学校が95%くらいで蔵書率は高いです。おそらく100%を超えているところが多いのですが、その数は、阪神間と比べれば26%くらいです。</p> <p>100%到達していない7割はというとだいたい少なくとも80%台から上です。</p>
大塩市長	設備も必要ですが、習慣づけも必要ですね。
牛尾教育長	両面で充実させていきたいのでよろしくお願ひしたいと思います。
大塩市長	加藤委員からは、ICTですね。
加藤委員	結局この要望になるとどうしても予算要求に近いものになりますから、現場にソフトを入れてくれ、パソコンを充実してくれとなりますが、さきほど申し上げたように入口の課題です。入口でこれをやることによってネットワークを作れます。するとこの施策というのは、発展性がすごく上がります。ですからみんなで情報を共有できるということになれば小学校からずっとその子の育ちに関することをデジタル化して中学校にいける。そうすることによって、その子一人ひとりに対してものすごいきめ細やかな指導が可能になります。昔もそういうことを文章にして申し送って、こうやったなと伝えることができたでしょうが。
大塩市長	その評価する先生にもしっかりしてもらわないといけませんね。

発言者	発言内容等
加藤委員	そうですね。
大塩市長	引継ぐ内容について、管理の必要もありますね。
加藤委員	<p>そうです。だからこれはただ単にソフトとハードだけで受け止めるだけではなくて、間にそのシステムを運営する指針がなくてははいけませんし、セキュリティがものすごく重要になってきます。</p> <p>それと、僕もこの話しを初めて聞いたときに市長がおっしゃったように、やはり統一のソフトを使い、デジタルで判断するということに関して、判断基準を統一しなければならぬから、そここのところの課題としてはやはりそういうことをきちんと統一意識できちんと出来るような人材の育成が大きな課題かなと思います。</p>
大塩市長	<p>良い意味とちょっとマイナスの面と両方ですね。</p> <p>管理能力が絶対に必要ですね。</p>
加藤委員	<p>他市がやってきている所でやはり問題点が生じているところもありますので、そここのところを参考にしながらやれば、かなり良いものができるのではないかと思います。</p>
大塩市長	<p>そういう意味では遅れているということではありませんね。管理面もしっかりしていかないといけない。受験問題にもつながっていく話しでしょうし、ある意味、就職問題にもつながっていくこともある。</p> <p>どう管理するかですね。効率化だけばかりしていると痛い目に遭うかもしれない。使い方をどうするかなので、研究が必要ですね。</p> <p>4番目に教育長からあった「スクールソーシャルワーカー」ですが、これは非常に難しい話ですね。</p> <p>オンブズにも、自分達だけ聞いているのではなく、学校と連携してほしいと就任時から言ってきました。最近結構、交流してくれていると思いますが。</p> <p>スクールソーシャルワーカーを置いて解決出来る問題なのですか。分からないですよ。青少年センターとかそういうところでも現に相談窓口がありますよね。</p> <p>そういう窓口を多く重ね、オンブズもあるし相談センターもあり充実はしていった中で、いじめも不登校もなくなる。心理面は難しいですね。</p> <p>算数を教えるのとは違いますよね。</p>
牛尾教育長	<p>オンブズの場合は要望があって進めていくケースになりますね。</p> <p>相談業務に関して教育相談センターでは、要望があって実際に時間を決めてカウンセリング・教育相談に入ってそこで一定帰結する形で、繰返しはありますが、実際に一番重要なところは本当に生徒指導、学校の中と家庭との関係の中で家庭の協力を得て、一緒にやっていけるような体制には今ないです。</p> <p>放課後に担任が中心になって家庭訪問するという事は、普段の授業中に家庭訪問とか生徒指導することはできません。そういう時に要請があって時宜に応じた対応が必要だと思えば、教育委員会が持っている学校コンサルテーションというのは実際先生方の指導とか助言とか心のケアとかできますけれど、家庭の親御さ</p>

発言者	発言内容等
	<p>んまで相談に行くとか話し合いをすることまではできないのです。求められていないです。</p> <p>そこで実際にコンサルテーションからスクールソーシャルワークという事業に変えて、スクールソーシャルワーカーが家庭環境の改善を含めて子どもたちの親御さんと協力して、相談、対応も含めて、そういったところも改善できる立場でもあります。スクールソーシャルワーカーという立場の人たちは、臨床心理士も1人います。これに実践を積んで現場出身の教職員をスクールソーシャルワーカーとして1名、専門家で児童福祉の関係の方1名を配置します。今の所メンバーを調整することが出来るところもあるのですが、体制を整えて、学校の担任の先生や学年の先生とチームを組んだメンバーで、家庭環境を踏まえ、一緒に出来るような取り組みをすれば、要望に対して予防にもなるし、早めに改善ができると思います。全部は難しいかも知れません。</p>
大塩市長	よく分からないのが、これは予防かと思って聞いていましたが。
牛尾教育長	予防です。
大塩市長	最後のほうで、おっしゃったことは予防ではなくて対策ですね。
牛尾教育長	不測の事態も生じてきますので。
大塩市長	<p>対策となればオンブズとかそういうのはありますが、今の話は、予防ですよ。それは全部できるのですか。</p> <p>教育全体の中で専門の先生はやはり必要ですか。</p> <p>学校教育の中で平生から教育を受ける中で醸成していくのではないのですか。そこから不登校やらが出てくるから、そうならないようにしていこうという考え方は否定しませんが、それってそれだけで賄えるのですか。常日頃、担任や先生がちゃんとしないといけないのではないのですか。</p> <p>そういうふうに私は思いますが、予防は大事ですけどね。</p>
牛尾教育長	<p>おっしゃるとおりです。本当にそうです。</p> <p>それくらい時代も難しくなっているところではあります。</p> <p>当然、学級にしても生徒指導とか家庭の様子とかというのは学級担任や学年の先生が中心です。</p> <p>先生方もそういう面では研修を積んだりカウンセリングマインドの相談体制のあり方については研修したりということはなさっています。</p> <p>それだけでは難しいのが現状としてあって、学校カウンセラーとか教育相談、オンブズパーソンがありますが、そういう声があった時にできるスクールカウンセラーは良いシステムだと思います。</p>
大塩市長	<p>そういう備えではなくて事後処理的なことばかりですよ。今のオンブズにしても、今おっしゃったように予防なのですが難しいと思うのが何故かという、よく事件を起こしたりするような子は、決してそういうのではなくて、成績が優秀な子とかあの人は良い子やったのにという声ばかり出ることが多いですよ。そういう人に</p>

発言者	発言内容等
	<p>どうして指導していくのか。</p> <p>学校に行かないのは本人の嫌さもあるかも知れませんが、家庭的な環境で来られない子もいるとか、それはある程度わかりやすいですよ。ただよく耳にするのは成績の良い子なんかに限って、というそういった子たちがそうならないようにしていくために、対応していこうとするのですか。どういう解釈をしていいのかわかりにくい。</p>
牛尾教育長	<p>実際にいじめにしても不登校にしてもやはりアンテナを高くして教職員中心に対応していかなければならないわけですが、おっしゃったようにこの場合だったら、スクールソーシャルワークというのは現状に沿った対応が出来ます。</p>
大塩市長	<p>今の話しだと2人入れたって駄目でしょう。どの程度のことを考えるべきなのか。</p>
牛尾教育長	<p>どこでも一緒に出て行ったら大変難しい面はありますけれども、そういうことが生じるケースもあると思います。</p>
大塩市長	<p>そういうのは青少年センターやオンブズが進めていくことはできないのですか。</p>
牛尾教育長	<p>相談だけでは解決できない面もあります。オンブズに相談があがってくればオンブズの方も動かれます。</p> <p>緊急事態の発生には生徒指導員担当は、どこの小中学校も抱えている課題です。その時に担任が協力していい形で動いて、家庭の協力をもらえるような体制を組んで解決していくということが今は本当に必要ではないかと思います。</p>
大塩市長	<p>時代錯誤と言われるかもしれませんが、昔は子どもが事件を起こして親が学校にいけば、「先生のいうことをなんでもかかないの」と言われたが、今は反対に、子どもが言っていることが先になる。その辺りの事を解決していく方法を考えることも大事じゃないかと思います。私はまだそう思っています。先生を神聖化する必要はないですが、人を敬うなどの教育がどこかで失われてきていますね。日本の文化にしても親を敬うとか、目上の方に対して敬意を払うということによって、そういうことがなくなっていかないかなと思います。</p> <p>今はなんでもかんでも自由や自由やと言いますが、自由をはき違えているところもあるように感じています。今の話しでも、なんとか助けてあげてというために、こういうことをしているとかではなく、与えるばかりでない、こういうことを解決していくための何かもっと他の方法ないのでしょうか。</p> <p>観光旅行でも今まで見るだけだったが、体験型にしないと入らない。子どもたちにも上から言われているだけではだめなのでしょう。体験できるようなシステムづくりを、粘り強く頑張れる。頑張ったら成果があるとかね。こんな発見ができたとか、そういうふうな何かをする方が先で、スクールソーシャルワーカーを入れて守るとするのは、ちょっと。</p>
牛尾教育長	<p>おっしゃるとおりです。担任や他の先生方が難しいお家の親御さんに理解と協力を求めていく、そういう気持ちで対応してもらっているのですがやはり難しいです。</p>

発言者	発言内容等
大塩市長	<p>我々の責任でもあるわけですね。我々の時代になんでも許してきたから今ここで出ているのです。ただ、ゆっくりでも、その大きなネジを回していかないと、小さな駒もまわりませんよね。やはり大きなネジをと思います。</p> <p>そういうことも必要であるならば、しっかりこれははっきりこういうことによって、こんなことが改善できますよとか、もう少しわかりやすく皆さんにしていくほうがいいと思います。その辺が気になりました。</p> <p>服部先生からもいろいろ資料が古いということですが、だいたいそういう資料の改訂というのは期間的にはどれくらいですか。</p> <p>毎年毎年というわけにはいきませんよね。</p>
服部委員	<p>たとえば人口なんかでしたら毎年毎年変わっていきますね。ですからそれは小さな改訂ですが、問題なのは根本的に違うということです。</p> <p>もう少し見方を変えると先ほども言いましたが、個別に取り扱うのではなく、もう少し体系的に関連させる。例えば産業と気候・地形だとかそういう問題をお互いに関連させていくということが抜けている。個々の問題は個々の問題で出しているのもあるのですが、問題が関連しないから、たとえば桃なんて別にどこでも生産できるわけです。にも拘わらず何故あそこで生産しているのかという問題につながっていかない。</p>
大塩市長	<p>そういう記述が今の所ないということですか。</p>
服部委員	<p>そうですね。川西の特性が捉えられていない。たとえば昔は寒天を栽培していましたね。何故寒天を栽培できたのかというと、妙見山があるからです。妙見山に低温帯という気候帯があってそこから冷たい空気が流れ込んできて寒天生産ができるわけですね。だから伊丹でできるかと言われれば絶対できない。そういうような環境条件がないと。そういう環境条件と結び付けていく事によって子どもたちももっと理解できるし、ふるさとのことが分かっていくのではないかということです。</p>
大塩市長	<p>今も副読本がだいぶ資料が古いということですか。</p>
服部委員	<p>そうですね。今、私が言いましたような資料が入っていない状況です。</p>
牛尾教育長	<p>差替えしながら編集委員会を設けて作っていっています。</p> <p>3年4年生が学習指導要領の地域のことを学ぶのが目的です。それは北海道とか群馬とかよその部分が教科書に出てきます。それを川西市域の副読本を作ること、子どもたちにふるさと教育を進めていくことが出来るというのが基本です。中身が差替えだけなので、きちっと体系的に作って全面改訂してより良いものを作りたいのです。</p>
大塩市長	<p>副読本というのは毎年使っていますか。</p> <p>予算的には、作成費はどうなっていますか。</p>
服部委員	<p>2年に1度です。今年と来年はこれを使って、というかたちで。</p>

発言者	発言内容等
大塩市長	今年というか来年は改訂の年になるのですか。
服部委員	今回は1年間くらい、2年くらいかけてですね、小学校中学校を作る。小学校の方はこれを改訂が終わるまで。
大塩市長	改訂は、おおいに結構ですが、今までどんな形でしていたのかと思ひまして。
服部委員	今あるのは2012と2014年です。だからちょうど改訂の時期です。
大塩市長	2年に1回なのですね。
服部委員	<p>ですから人口のデータなんかは度々新しくしています。古いものをそのままずっと印刷しているわけではありません。</p> <p>さきほど教育長が言われましたように、例えば川西というと多田源氏というのが出てきます。多田源氏だけが川西なのかというのが第一の疑問で、もう少し多面的に川西を見るというのが必要です。だからこの中でも多田源氏は出てくるのですが、それ以外は出てこない。</p>
牛尾教育長	歴史に関しては、それが中心に入っています。中学校に行ったら当然、歴史・民俗資料館とか文化財資料館とか含めて出ています。
大塩市長	その編集は誰がどこでやっているのですか。
牛尾教育長	中心は小中学校の社会科の編集委員会です。そこが母体です。
大塩市長	ぜひ良いものを作っていただきたいです。逆にこちらが要望します。ページ数とか色んな制約がありますよね。
加藤委員	教科書の枠から抜け出ていないというところがあって、もともと枠ありきでずっと改訂が続いてきたから、こういう形できて、服部先生がおっしゃるように見方を変えた視点の記述も必要じゃないかと思います。それが本当の川西の教科書であると思います。
大塩市長	ということは、提案をいただいている改訂というのは、ちょうど改訂年度にあたりますよと、だから少し中身を吟味しましょうよ、という話しですね。
服部委員	そうですね。それプラス根本的に改訂するということです。部分的に改定するなら今までもそれなりにやってきました。今回はそれを大幅に改訂するということです。だから部分的改訂でしたらここで問題に出さなくても毎年やってきたことだからということで済みます。やはり少し考えかたを変えて、今、加藤先生が言われたように生涯学習的な面にも使えそうなものにならないかとか、そういうところには視点をいれたらどうかとか。
大塩市長	今は子どもさんに使っているのですよね。

発言者	発言内容等
服部委員	はい。小中学生にそれぞれですね。別々に。 内容を見ると大人が読んで川西のことを理解するのもよく使えます。
大塩市長	中学校くらいなら大丈夫なのかな。小学校となるとどうかな。
服部委員	小学校3,4年生がいますので。
大塩市長	いや、生涯学習の方です。そういうふうな形も含めると、中学校ならある程度使えそうだなと。 どの程度のものをどういうふうにするのか制度的にやっていかないと簡単にできないですね。
服部委員	そうですね1年じゃ無理なので2年くらいかけて委員会でも作って。
大塩市長	そうしないといけませんね。 勝手なことばかり言って申し訳ないです。せっかく色々要望があったので、皆様に色々提案していただいてありがとうございました。 委員会の事務局としてもそれを踏まえてしっかりしていきたいと思います。 さきほど述べましたが、大きなうねりはあると思います。そう簡単にいかないと思います。少し、自由ばかりが表現されて、自由の中にも制約があるということ、少しよそにおかれて、自分の思う通りになるということが気になる場所もございまして、急には治らないかもしれませんが、今の教育を受けている子が親になった時にそうになっていけるという子育てが人と人のつながりとか人に感謝することを多くの人に繋がっていくように私も努力したいと思いますので、皆様宜しくお願いします。長時間ありがとうございました。

以上会議の事項を記録し、相違ないことを認めたので、ここに署名いたします。

平成27年11月13日

川 西 市 長 大 塩 民 生

川西市教育長 牛 尾 巧